

環境に優しい + 地域内の新たな移動・回遊性を高める→市民の利便性向上・経済波及が可能に。

②食品ロス削減の取組

日本では年間約 612 万 t の食品ロスが出ており、さいたま市では年間約 1 万 4 千トン、市民一人一日あたりでお寿司 1 貫分 (30g) のロス。

施策①Saitama Sunday Soup

(日曜日は食べつくスープ!)

「野菜」などの生鮮食材を、まとめてスープにして食べつくす新しいライフスタイルを発信。

施策②フードドライブ

民間事業者とも連携し、市内 20 か所に回収窓口を設置。

施策③チーム Eat All

食品ロスの削減に取り組む事業者等をチーム Eat All 参加事業者として登録。

③2019年3月末に、大宮駅東口に東日本連携センター、愛称「まるまるひがしにほん」をオープン



…経済局の取り組み、交流・発信・活性化を促す地方創生の場として開設。

来場者数 200 万人突破。最近では、同じ地域資源を持つ離れた市町村同士や、周辺の複数の市町村が共同して出展するなど、少しずつ連携の輪が広がっています。

さいたま市のSDG s 認証制度とその他登録・宣言制度

実施主体	さいたま市	埼玉県	さいたま市
制度名	CS・SDGs パートナーズ	SDGs/パートナー	SDGs企業認証
階層	宣言	登録	認証
対象	市内に関わりのある企業・団体 (NPO、学校法人等)	県内に本社又は支社等を有し、事業活動を行う企業・個人事業主、NPO、団体、大学等	市内に本社・支社等を有し、事業活動を行う企業・個人事業主、中小企業組合
目的	市民満足度の向上及びSDG sに取り組んでいる企業・取組もつくる事業者の奨励 (数野の拡大)	SDG sに取り組んでいる事業者に対する支援機会の拡大	SDG sに取り組んでいる事業者に対する支援機会の拡大
期間	期限なし	3年	5年
要件	市民満足度の向上を目指し、SDGsの達成に取り組むこと	SDG sの達成に向け、山・環境、社会、経済の分野の取組及び目標を設定 かつ 取組の内容が具体的に明確であること	チェックリストの11マストSDGsの全10項目達成 ④ベーシックSDGs95項目の50%以上達成 ⑤チャレンジSDGsの目標3つ以上設定 第三者機関による認証審査
支援内容	共同宣言書の付与 市HP等でSDG sの取組をPR	登録書の付与 市HP等でSDGsの取組をPR より低利な県制度融資を利用可能	認証書の付与 市HP等でSDGsの取組をPR より低利な市制度融資を利用可能 SDGsコミュニティの参加等によるSDGsの取組深化支援 SDGs経営のコンサルティング 委託等の異種別評価項目の加算

さいたま市SDG s 企業認証制度

SDG s の理念を尊重し、経済・社会・環境の3つの分野を意識した経営活動を。推進する市内企業を、さいたま市が認証し、継続的に支援する制度です。

・対象は、さいたま市内に本社・本店・事業所等を有する企業、個人事業主、中小企業組合。

認証取得の主なメリット

- ①企業 PR 支援
- ②コミュニティへの参加
- ③個社別の支援
- ④金融支援
- ⑤市の発注業務の加算

・認証条件となるSDG s チェックリスト

企業が、日々の経営活動や経営課題がSDG s の達成に繋がっているという気づきを得るとともに、企業の自律的なSDG s の取組を後押しすることを目的に、作成したもの。

・チェックリストは、「マストSDG s」「ベーシックSDG s」「チャレンジSDG s」の3階層から構成され、チェック項目形式又は記入シート形式となっています。

①マストSDG s

マストと考える項目=絶対に欠かせない必須項目として10項目を設定。

②ベーシックSDG s

規模や業種に関わらず取り組めるもの、つまり原則としてどの企業でも実践できるSDG s の取組を、95のチェック項目として列挙。

③チャレンジSDG s

各企業が掲げるオリジナルのSDG s 目標を記載。

★申請から認証まで まとめ

①自社のSDG s 取組状況の自己診断。

マスト及びベーシックSDG s のチェックリストに基づき、自己診断をしてください。

②目標設定

チャレンジSDG s のチェックシートを活用して自社のSDG s 目標を設定し、その目標に関するKPIの設定および自己評価を行ってください。

③審査会による認証審査

市の附属機関である「さいたま市SDG s 企業認証審査会」にて専門家等による審査を行います。

④審査終了後、結果を個別に通知

★さいたま市SDG s 推進マニュアル

企業がSDG s に取り組むための教科書及び「さいたま市SDG s 企業認証制度」に応募する企業の手引きとして活用できます。市のホームページ上で公開中です。



「ハイライトよねやま」に掲載

4. 子どもと一緒に収穫体験 — 2770 地区 —

第2770地区(埼玉県南東部)では11月4日、有志の山梨奨学生・学年が子ども園の芋掘り行事を手伝いました。

同園では新型コロナウイルスの影響で父母たちへ行事補助を依頼することができず、先生方の負担が増えました。そうした中、山梨奨学生がこれまでの道のりを付き添い、子どもたちの安全を見守ったり、園児が掘りやすいよう厚い土をほぐすなどサポート。平日開催のため、参加者は限られたものの、奨学生からは「こんなに素晴らしい体験をさせていただいて嬉しい」、「また子どもたちに会い

に行きたい」といった声寄せられました。また、子どもたちも「昨日のお芋掘りは楽しかったよ!とお兄さんたちと掘ったお芋おいしかったよ!」と、ロケに話していたということです。

同地区米山記念奨学部委員長の藤崎剛史氏は、「今年もさまざまな行事が中止になるなか、屋外で開催できる行事を開催できてよかった」とし、今後も感染状況を注視しながら徐々に交流を再開したいと話しており、来年1月には初年度として、書き初め会を開催予定だとのこと。



ガンちゃんも参加した芋掘り行事が掲載されています。